

令和6年度 第1回学校運営協議会 議事概要

開催日：令和6年6月13日（木）

時 間：15：30～16：50

会 場：深沢高等学校会議室

司 会：日比野総括教諭

記 録：岩橋教諭

<出席委員>

里 見 正 憲 委員

畑 谷 智 子 委員

池 田 吉 伸 委員

堀 井 久 章 委員

小 林 瑞 幸 委員

与 安 透 委員

（委員総数6名、欠席2名）

<説明のための出席教職員>

村 田 克 也 副校長

佐 藤 竜 太 教頭

高 野 真 一 事務長

大 谷 英 弘 総括教諭

小松原 肇 総括教諭

佐 藤 準 也 総括教諭

佐 藤 英 幸 総括教諭

日比野 規 生 総括教諭（司会）

岡 沢 哲 晃 総括教諭

岩 橋 伸 起 教諭（記録）

<公聴者>

公聴席を設けましたが、希望者はありませんでした。

<議事等の概要>

1 授業参観

深高祭（9月上旬実施の文化祭）クラス参加についてのロングホームルーム討議の様子を参観していただきました。

2 出席者あいさつ（自己紹介）

与安校長

皆さんこんにちは、令和5年度第1回の学校運営協議会にご参加いただきありがとうございます。4月に着任しました。委員の皆様にはご承知のとおり、本校は令和9年3月末をもって藤沢清流高校との再編統合で完校となります。完校まで2年余りですが、学校は勉学するところだと考えています。生徒にはしっかり勉強してもらい、部活動にも頑張ってもらおうよう職員一丸で向かっています。同時に、現在は校内物品の片付け等の業務に入っています。

本日は学校運営に対して忌憚のないご意見をいただきたくよろしくお願ひします。

桜美林大学 里見委員

桜美林大学の入学部でオープンキャンパス、大学入試、在学生の就職指導等を担当しています。深沢高校から今年も多く受検してもらえるとありがたい。

P T A会長 畑谷委員

本年度の本校P T A会長として活動しています。学校運営協議会の委員としてもよろしくお願ひします。

手広中学校長 池田吉伸委員

深高生には自分たちで色々なことに取組む姿勢がある。手広中生にとっても近くて行きたい高校であるのに募集停止になり残念です。保護者も残念がっています。

同窓会副会長 堀井委員

再編統合まで、あと3年弱となりました。同窓会でも深沢高校のために何ができるか考えています。

鎌倉市子ども未来部青少年課課長 小林委員

委員として3年めになります。今日も下校中の生徒とすれ違い、いい雰囲気の学校だなあと改めて感じました。

3 今年度の会長及び副会長の選出

本校P T A会長の畑谷委員を会長に選出、手広中学校長の池田委員を副会長に選出。(以下の協議と質疑応答については、会長が議長となり進行しました。)

4 協議：令和6年度の教育活動目標設定について

(1) 教育課程・学習指導について 小松原総括教諭

来年度以降は職員数が減少していくため、影響が少なく済むようにシミュレーションをしています。深高の生徒は穏やかで頑張る生徒が多くいます。教職員として応援すべく、ICT機器を活用して授業を充実させます。

(2) 生徒指導・支援について 日比野総括教諭、大谷総括教諭

6月5日の体育祭は晴天に恵まれ、2ヶ月半の準備期間を経て、競技もダンス応援も見応えがありました。全学年が揃う最後の体育祭を通して1年生も充実した経験を積むことができました。次回の学校運営協議会となる9月の文化祭もきっと晴れます。ぜひ参観してください。

今回、ライフル射撃部が関東大会に出場しました。また、卓球男子団体部と女子硬式テニス部が県大会ベスト32に入りました。全学年が揃う最後の年なので、部活動の後押しも積極的にいきます。

生徒指導上の問題行動は起きていません。登下校中のマナーについては若干の苦情もありますが、近隣の方からも温かく見守っていただいています。

しかし生徒支援は増加しています。外部機関との連携を今年度も引き続き継続するとともに、すべての教員が対応できるようにしていく必要があると思っています。人間関係で教室に入れない生徒が安心して登校できるよう、職員の支援を必要とする1年生や2年生が増えています。

(3) 進路指導・支援について 佐藤準也総括教諭

昨年度卒業生の進路決定状況では、難関大にも、いわゆるMARCHにも、公立大学にも現役での合格者を出すことができました。進学結果は堅調です。

インターンシップは1年生200人に対して180人以上が地域で受け入れてもらえる見通しです。「仕事の学び場」と合わせて1年生全員の就業体験を行います。

3年生への文章指導について今年も充実させます。外部テストの結果分析からは、自宅での勉強週間に課題があるように見えています。読書活動では「子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けました。

(4) 地域との協働について 日比野総括教諭

一昨日に片岡幼稚園児との昼食会を行い、7月2日には新川清掃という地域との協働でのボランティア活動を計画しています。2学期には地域清掃です。

学校HPは、昨年度までは中学生向けの生徒募集を狙いとしてきましたが、今年度からは地域や卒業生への発信を目指していきます。

(5) 学校管理・学校運営について 佐藤英幸総括教諭

新型コロナウイルス等の感染症の罹患者数は減っていますが、温暖化による暑熱への対策が懸念されます。

事故・不祥事防止と業務の効率化に向けて、ICT化、ペーパーレス化を進めています。保護者等への連絡もマチコミメールでの配信を心掛け、生徒への連絡や授業課題の配信ではグーグルクラスルームやロイロノートを使っています。利用するソフトが増えているので、そのことで事故につながらないように注意しています。

安全・安心な環境整備に向けて校内美化を行き届かせたいと心掛けています。防災教育や避難訓練でもこれまでの取組をブラッシュアップしていきます。

(6) 再編・統合について 岡沢総括教諭

学校目標には項目がないが、40周年記念式典を来年11月に予定し、記念誌も発行するための原稿依頼を進めています。完校に向けての物品管理リストも作成中です。職員数が多いうちに処理を進める計画です。

(7) 学校施設開放の状況 高野事務長

地域住民への施設開放として本校のテニスコート4面を開放しています。昨年度は3団体が登録し、延べ13回、延べ92人の利用がありました。

(8) 職員の勤務状況について 佐藤竜太教頭

勤務時間管理システムにより、出勤時に自席のパソコンを立ち上げ退庁時に電源を切ることで、勤務時間が自動計算されます。4月は時間外在校時間45時間超が8人、5月は11人に減っています。学校規模が縮小するのに合わせて業務もコンパクト化するように、意識啓発し年次休暇の取得を推奨していきます。

5 説明に対する各委員からの質問や感想と事務局からの回答

里見委員：日常の業務に重ねて新校に向かう業務があり、職員数が減ると一人一人の担当業務が増えることになりそう。学習指導での協働的な学習はどのようになっているのか、主体的対話的な授業はどのようになっているのか、様子を知りたい。

体育祭が順調に終わったと報告された。1年生は今年の実験を大切に、今後の学校生活を充実させてほしい。進路指導も充実している。年内入試が増えている。桜美林大学でもこれまでは1600字の小論文を課していたが、基礎学力テストに切り替えた。このような方針転換は増えるだろう。

保健室や相談室の利用について、昨年度に比べて4月と5月で何か変化したことはあるか。変化はあるか。

回答：探究的な学習で活動が充実してきた。教員が評価の観点、評価方法を丁寧に説明している姿が見られる。自ら調べる、共有する、発表する等の活動のなかで協働的な学習や主体的で対話的な学習に慣れてきている。(小松原総括)

回答：新しい環境に適応するのが難しい生徒が多く見られるようになった。SCの利用が毎週予約で埋まっている状況である。本人の困り感に対して教員がどのように対応していくかが課題である。(大谷総括)

池田吉伸委員：深高生は明るく過ごし、学校行事にも自立して取り組んでいる様子が見られる。授業中の様子でもそうなのか、生徒の様子を知りたい。

防災教育のブラッシュアップを具体的に知りたい。

学校HPもこの数年で非常によくなっている。生徒の顔写真をぼかしているようだが、個人情報についてどのように点検しているのか。

回答：新課程の授業では班活動が増えている。高校生は照れるが、活動を受け入れて意見を戦わせている。新課程の学習活動は深高生に合っていると思われ、発表の活動が当たり前として定着しつつある。(小松原総括)

回答：地域と連携しての防災訓練が課題である。下校班を構成しての下校訓練を昨年度から廃止し、安全が確認できるまで学校に泊め置くことで安全確保することにした。DIG

(ディグ) 訓練を毎年行っているが、昨年度にタブレット端末で行った訓練を、今年は紙での訓練に戻すことにした。個々の液晶端末での訓練よりも、頭を寄せ合って意見交流するほうが高い効果があると思い見直した。防災避難訓練では、グラウンドに避難することが危険なこともある。想定を変えていきたい。(佐藤英幸総括)

回答：それぞれの教員がHP原稿を提案し、グループと管理職が点検し、決裁されたものを最後に私が承認ボタンを押してHPが更新される。

畑谷委員：今日の授業参観やこの協議会をとおして、学校の取組を知ることができた。図書館がとても充実しているように感じた。3年生への文章指導などの取組がありがたい。

堀井委員：生徒たちを第一に考えて教育していることを痛感した。「安心して通える学校」というあり方が嬉しい。不登校気味だった子たちの通えないという理由が何に起因しているのかわらくなってきたときにどのように対応、指導しているのか。

回答：生徒の困り感の把握し、担任、養護、様々な教員チームを組んで改善につなげている。家庭環境に起因する場合は、SSWから医療、児童相談所、警察などのどの外部機関につながるのかがその生徒にとって最適なのかを考えている。

小林委員：4点質問する。

- ・グラウンドデザインにある「地域を考える：安全・防災」における地域の課題収集について、地域課題の収集の具体的なものは何か。
- ・インターンシップ先の見つけ方、生徒希望・興味に傾向はあるのか。
- ・表彰された朝の読書活動について知りたい。
- ・職員数が減っていくなかでの部活動のあり方（地域移行）をどう考えているか。

回答：修学旅行の中心として防災学習を置き、被災地復興のNPOの職員と交流し岩手県大槌町の防潮堤計画を考えるなど高校生にとってはかなり難しい内容に取り組んできた。最後の39期生は、東北三陸から阪神淡路をフィールドにして都市型の災害について考える機会を作っている。(佐藤準也総括、日比野総括)

回答：地区や県とつながりを増やすよう努めている。保育、レジャー施設、販売系、サービス業が人気である。

回答：朝の読書活動を20年近く継続してきた。総合的な学習の時間、総合的な探究の時間として学年ごとに大きなテーマが設定されている。そのテーマに沿った読書をとおして生徒が知識や情報を蓄積し、進路の小論文にも対応できキャリア形成につながっている。完校に向けて忙しさが増す中で、職員の仕事を増やすのではなく、日頃から丁寧に取り組んでいることを報告書にまとめた結果の表彰である。生徒や教職員のモチベーション維持につなげたい。(村田副校長)

回答：部員数の減少により、今後は他校との合同チームの増加が考えられる。職員の減少に伴って複数の部活動顧問を持つことが予測される。部活動の新設はできない規約に改定した。

(日比野総括)

6 校長あいさつ

本日は貴重なご意見をありがとうございました。第2回の学校運営協議会は9月6日、7日の深高祭を参観していただき予定です。よろしくお願いいたします。

以上